

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・ホームビジョンを職員間で共有し、朝礼会議を通して実践出来る様に具体的支援の話をしている。	法人の理念、ホームビジョンを玄関と事務所に掲示し実践している。朝礼時、事務所でミニ研修を行い職員間で共有したり唱和もし、利用者支援の中で意識し、「介護に悩んだ時は理念に立ち返って仕事をす」ことを管理者が常に指導している。家族に対してはホームビジョンに沿った取り組みについて説明をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域交流の場を心掛けている。ホームの活動は、愛の家新聞にて周知出来る様になっている。	自治会費を納め、地域の一員として活動している。地区のお知らせや近隣の方から地域の情報を得ている。「愛の家新聞」を発行し、家族や運営推進会議メンバー、ホーム来訪者に渡しホームの様子をお知らせしている。小学校高学年の生徒が来訪し、利用者やゲームなどを行い交流の機会を持っており、運動会にも招待され席を用意していただいている。体験学習の中学生や見学の高校生なども来訪している。福祉大の学生の実習も受け入れており、事例発表時には職員がコメンテーターとして大学に出向いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	知識向上のために毎月研修の場を持ち地域の要望に応えられるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催にて、近況報告、意見交換にて委員からの意見を頂きホーム運営に役立てている。	例年であれば利用者家族、地区住民、介護相談員、地区社協職員、広域連合職員、市介護福祉課職員、ホーム職員の出席で定期的に開催しているが、新型コロナウイルス禍の感染拡大防止のため書面にて開催しており、メンバーに資料を送り、要望・意見を記入頂き、結果を伝えてサービス向上に活かしている。新型コロナが一時収まった11月には3密を避け、近くの公共施設で開催することができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携に努め市町村関係者から助言を頂いている。協力関係の継続に努めている。	市主催の医療と介護の連携委員会の委員として管理者が出席し、認知症になっても地域で暮らせるよう協力関係を築いている。岡谷市グループホーム連絡協議会にも出席し情報交換やスタッフ育成について連携を取り話し合っている。地元の企業の新人教育の一環として開かれる「認知症サポーター養成講座」に講師として出席もしている。市介護相談員2名による月2回の来訪があり、利用者との信頼関係を深めており、新型コロナ禍でも介護相談員からビデオメッセージのCDが届いている。認定更新調査については調査員がホームに来訪し行われている。	

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会にて職員が認識を持ち身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	玄関は日中開錠されており、現在外出傾向の強い方はいない。毎月の会議や研修で拘束について話し合い意識を高めている。転倒防止のためセンサーマット使用者が若干名いるが家族の了解を得、解除の方向性を探り常に検討している。日中ホーム内の廊下を歩くことを日課とし、また、散歩に出掛けることで落ち着き、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い虐待防止の認識を持ち仕事に従事している。管理者は日々の観察と防止策に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の場を利用して職員の知識向上に努めている。必要におうじて関係者との話し合いの場を持って支援出来る様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご入居者、ご家族に理解できるよう十分な時間を取り説明し、不安や疑問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族アンケートの実施やご意見は子の設置をして意見要望に応えられるよう支援を行っている。運営推進会議で結果の周知もを行っている。	数名を除き殆どの利用者が要望を伝えることができる。表現できない方には表情から推測し家族からの情報も得ている。家族の意見・要望は電話や面会時に聞いている。また家族アンケートを実施し、運営推進会議で報告し運営に活かしている。家族会は年1回夏に、利用者・家族・運営推進会議メンバー・介護相談員・ホーム関係者の出席で開催され、和気藹々と交流が行われ、家族も楽しみにしている。毎月、居室担当者が利用者の様子を写真入りのお便りにし、月の生活状況・日中の様子・夜間の睡眠・入浴について報告書を付け送付し家族に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談の機会を設けたり、職員アンケートから出された意見に対しての対応を周知している。職員の意見は積極的に反映出来る様努めている。	月1回開かれる全体会議で法人よりの通達事項・行事連絡・各種研修を行い、ユニット会議では利用者個々の情報の共有・事故対応・カンファレンス等もを行い、職員の意見や提案を聞いている。人事考課制度があり法人全体として階層別評価を行っている。職員は個人目標を立て3ヶ月毎に自己評価し、ホーム長とユニットリーダーによる個人面談が行われスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、昇格の出来る体制を整え、職員がやりがいや向上心を持って仕事が出来る環境に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修を積極的に参加できるようにしている。職員の力量を把握した研修を行っている。研修後は会議の場を利用して他職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流により各事業の利点を含め周知し、ホームの質の向上にも参考にしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子や発言する言葉に耳を傾け安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの意見・要望を参考にしケアプランを作成し、面会時やお便りにて都度報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の近況状況、又は変化時には必ず家族連絡を行い、必要とする支援についてご家族と話し合い対応に当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者ひとりひとりを尊重し家族の一員の関係作りに努めている。家事仕事、趣味等を通じて入居者同志の関りが持てるよう支援している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを考慮し、気軽に訪問でき、ご本人との絆が持てる環境づくりを心掛けている。ご入居者の様子を周知しながら、良い関係を作り、共に入居者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の訴えやご家族様からの情報を大事にして馴染みの人や場所への提供に積極的に努めている。	新型コロナウイルス禍で面会は難しいが家族に玄関先で会ったり、2階からは窓越しで顔を見せ話している。ウェブ面会も数名の方が行い家族や親戚が準備し、30分ほど話をし利用者や家族も喜ばれている。面会が一時緩和された時には家族・近所の方・知り合いの神父さんが来られたという。友人や親戚からの電話はいつでも取次ぎ、年賀状なども出し返事も届いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者が孤立しないよう入居者同志の関り が持てる様配慮支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了においても継続して、ご家族の相 談に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者・ご家族の意向を聞き希望に添える よう努めている。	数名を除き殆どの方が、希望や意向を伝えることが できる。遠慮がちの方もあり、入浴時に話をして無理 強いはせず思いを聞き出している。話された言葉は 介護記録システムに入力し職員間で共有し支援に取 り組んでいる。ある利用者から「いなごが食べたい」 と言われ家族に連絡して持って来ていただいたとい う。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	生活歴や慣れ親しんだ生活の継続が出来る よう職員は経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	職員が日々観察の中から、入居者個々の 心身状況や暮らしの中での気づきについて 職員間で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	関係者会議の開催にて現状把握」を行い課 題を見つけ介護計画の作成を行っている。 家族の協力も必要におうじて得ている。	職員は1~2名の利用者を受け持ち、衣類の確認・入 れ替え・不足物の補充・毎月のお便り・家族への協 力依頼等を担当している。介護計画は計画作成担当 者より「サービス計画実施状況の総括及び評価表」 が居室担当者に配布され、事前確認を行い、それを 基にサービス担当者会議において検討し、3ヶ月に1 回プランの見直しを行っている。状態に変化が見ら れた時には随時見直しを行っている。家族の希望は 来訪時や電話で聞きプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を活かしながら職員間で情報を 共有し変化があれば介護計画に活かしてい る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況を常に把握し、ご本人や家 族の希望されることに応えられるようにして いる。外部のサービスも積極的に取り入れ ている。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居者の生活の広がりを持って貰う為地域との関わりを大切にしている。地域の方々が気軽に立ち寄れるよう行事の誘いをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携に努め心身の変化時には気軽に相談できる様関係を築き、ご入居者の健康維持が出来るよう努めている。	入居前からのかかりつけ医を継続している方が数名おり、ホーム協力医による月1回の往診もあり、受診時は家族が対応している。訪問看護ステーションから週1回の来訪があり、健康管理に合わせ医師との連携を取っている。事務所に薬の保管庫があり、薬局の方が見え薬の管理がされている。歯科については往診もあり、口腔ケアの指導を職員が受け、利用者の口のケアにも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に1週間の心身の状況を伝え、適切な看護や指示が受けられる様密に情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、医療関係者の関係を大切に、相談、情報交換の場に参加し、入居者の対応について両者感の連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に伴い、都度ご家族様と話し合いの場を設け、関係者と情報交換しながら対応をしている。	重度化した場合の指針があり、利用契約時に細かく説明し同意を得ている。状態に変化が見られ、終末期に到った時には家族・医師・看護師・職員で話し合いを重ね、希望に沿った支援ができるよう取り組んでいる。ホームとしての看取りの経験も数件ある。年1回看取りの研修を行い、対応の仕方・心の持ち方などを話し合い、かかりつけ医の話を聞きチームとしての取り組みもしている。看取り後、家族と思い出話をし、アルバムを作りお渡しして喜ばれたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の場を設け、急変事故についてマニュアルに添った訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練にて様々な装丁での訓練をしている。近隣住民の協力と参加を頂いている。	年2回春と秋に近隣の住民の参加も頂き防災訓練を実施している。通報、消火、避難・誘導訓練(内1回は夜間想定)を行い、利用者は玄関先に避難している。居室のドアの上に折り鶴が付けられ「赤色一要介助・黄色一要福祉用具・青色一自立歩行」と身体状況に応じた表示がされている。また定期的に防災関連会社が来訪し、防災機器の点検を実施している。備蓄は水・米・パン・缶詰等が3~4日分用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し、プライバシーを守り、言葉かけや対応に配慮した支援を行っている。	年1回ホーム内でプライバシー保護と権利擁護の研修が行われ、法人の他施設の取り組みを参考にし注意喚起を図っている。朝礼時に話し合い、入浴時・排泄時・言葉かけに注意し人格を尊重した支援ができるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が気軽に思いや自己決定出来るよう、コミュニケーションが取れる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の押し付けをする事無く、ご入居者の思いに添った生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望に合わせた身だしなみやおしゃれが出来るように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、盛り付け、片付け等一緒に行い、季節に合わせた食事も取り入れたり、季節の環境を味わう為に、春、秋等ホーム庭にて昼食する等楽しみが持てる様工夫している。	殆どの方が自立で、食形態は刻み・ミキサー食の方が数名いるが常食を摂取されてる。献立はグループ内の管理栄養士が立てた1ヶ月分の献立を調理し提供している。季節に合わせ、流しそうめんや食事処の屋台を出し雰囲気を楽しむ、利用者が作る餃子・お好み焼きなどの昼食も喜ばれているという。行事食は味も良く、目でも楽しめている。利用者のお手伝いは力量に合わせて下準備から盛り付け・洗い物まで行っている。ホームの畑があり野菜を収穫をし、食材として使用している。秋のさつまいも収穫祭りでは利用者と一緒にスイートポテトを作り頂いたという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は個々に合わせて提供している。禁止食は代用品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者への声掛けと力を引き出しながら、毎食の口腔ケアを行っている。ポリデントは週2回～3回行っている。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し、排泄パターンを知り、排泄の自立に向け、自尊心に配慮しながら、声掛けや誘導を行っている。	排泄については自立の方が半数で、全介助の方が数名、他の方は一部介助で、布パンツ使用者も数名いる。排泄記録を活用し排泄パターンを把握しトイレで排泄ができています。夜間ポータブルトイレ使用者が若干名いる。水分摂取による自立支援介護に取り組み、1日最低1,500ml以上水分を取ることで昼間尿量も増え排便コントロールもスムーズになり、夜間ぐっすり眠ることができ体の活性化の効果も見られているという。トイレはマークでわかり易く「あいています」の札が掛けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、自然排便を促す為に水分量の確保と活動の提供を行っている。便秘気味の方は、医師に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手合わせで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に添えるように努めている。	二人介助の方が数名、自立の方が三分の一ほどで、他の方は一部介助となっている。週2~3回入浴し、利用者全員が浴槽に入ることができている。時間帯は午後が多いが夕方に入浴されたい方には希望に添えるよう支援している。入浴を拒む方には「体重を測らせて」等、声がけし入浴していただいている。入浴剤を使い工夫し、スタッフが歌を歌って温泉気分を味わいながら入浴できるようしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを理解し安眠できるように生活のリズムと環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明文書をファイルにまとめて有り、スタッフが理解できる様いつでも見られるようにしている。症状の変化時についての対応も日常的に共有されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を理解し、ご入居者の得意な事を生かした役割作りをしている。食べたい物の希望に添えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食の機会を設け、希望する食事ができるよう支援をしている。個人希望の外出・外食等を計画し対応に努めている。	外出時、自力歩行の方が三分の一強で、歩行器・シルバーカーの方が五分の一、他の方は杖・手引き歩行となっている。年間行事計画表があり外出・外食を計画していたが新型コロナ禍ということで難しくお花見はお茶を飲みながらホームの庭から見学し、諏訪湖へのドライブ等に出かけたという。外食は近くのショッピングセンターによく行っていたが出かけられず、ホームの庭でバーベキューを行ったという。日常的にはホームの周辺を散歩し蚕糸公園も散歩コースとなっている。天気の良い日には野菜の収穫や、庭の椅子に掛け外気浴もしている。	

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭管理を行っている。買い物の希望がある時は本人と共に掛け、金銭の出し入れは行って貰っている。必ず見守り支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は要望に応じている。ご家族様からの手紙にてお礼の電話をしご家族様から喜ばれている。ホームにも個人宛で郵送されてきている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有ペースでは季節感を感じる装飾をしたり、入居者のホームでの様子写真を貼るなど環境作りに努めている。	掃除が行き届き、明るく日当たりの良いホール兼食堂の壁には利用者の作品が飾られ、廊下には「皆さんの一日」として一人ひとりの大きな写真や、行事の写真が貼られホームでの暮らしぶりを窺うことができる。日々行う廊下歩行の表が貼られており歩いた距離でシールを貼り、利用者のやる気を引き出し成果がわかるようにしている。水分摂取のポスター「1日水分1,500ml摂取・水を飲めば大丈夫・健康第一・今日は何杯目？」がイラスト付きであちこちに貼られ目を引いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲間同士が会話が持てる様居心地の良い場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の安全の確保を行いながら心地良く過ごせるばを常に提供している。見慣れた物、使い慣れた物は本人の安心となっている。	居室にはクローゼットが備え付けられ、持ち込みは自由である。住み慣れた自宅の部屋を再現している方もあり、テレビ・ソファ・机・椅子などが置かれ、家族が来られた時も寛ろぐことができている。空調はエアコンで24時間換気ができ、好きな物に囲まれ思い思いの生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の力を見ながら、ある力を引き出しながら自立した生活が維持できる様声掛け、支援を行っている。		